

意見書を提出

掛川市議会では、平成30年2月22日に『「県立横須賀高等学校の存続を求める意見書」の提出について』を全会一致で可決しました。本意見書は、鈴木正治議長と榛葉正樹副議長により、静岡県知事、静岡県教育委員会教育長、静岡県議会議長に対して、提出されました。



静岡県知事へ提出



静岡県教育委員会教育長へ提出



静岡県議会議長へ提出

横須賀高等学校の存続を求める意見書

静岡県教育委員会は、10年後の2028年度を見通して県立高等学校のあり方を示す、「ふじのくに魅力ある学校づくり推進計画」（静岡県立高等学校第三次長期計画）の案を策定した。少子化、人口減少社会における計画の必要性については一定の理解を示すことはできるものの、掛川市議会及び地域住民はこの案に大きな不安を感じている。

横須賀高等学校は、「明朗・誠実・敬愛」を校訓に、優れた感性と豊かな人間性を備え、地域のリーダーとなる人材の育成を目指し、郷土愛を土台として熱意ある教育を実践している。

また、生徒の約4割が掛川市南部の大東・大須賀地域から、同じく約4割が袋井市の浅羽地域や磐田市南部の福田・竜洋地域からと、全生徒の約8割が3市の南部地域から通学していることから、無くてはならない高校である。

卒業生の進路状況を見ると、約7割（進学者を含めば約9割）が地元の企業などへ就職していることから、地域活性化の拠点となる高校がなくなれば、地域の人材確保にも影響を及ぼすとともに、地域の経済発展や伝統文化継承の面でも大きな損失となる。地方創生を掲げている、政府の方針と逆行する結果になっていくことが予想される。

同校の郷土芸能部や剣道部をはじめとする諸活動は、地域の伝統文化を伝えるとともに、多くの卒業生や地域と深く結びついている。横須賀高等学校は、地域に愛され地域と共に生徒を育てていく教育がまさに実践されている教育機関である。

静岡県教育委員会の計画案の公表後、地域住民による「横須賀高校を守る会」が設立され、これまで培われてきた地域との強い絆を訴え、地方創生を進めるうえでの横須賀高等学校の存続を願い、横須賀地区を中心に1万人以上の署名が集まり、1月24日、県知事及び県教育長に提出された。

掛川市議会としても、横須賀高等学校は、地域に愛され「協働のまちづくり」の実践される重要な学校として、これからもこの地域になくてはならない学校と考えるものである。単に現状の生徒数や地図上における分布で見のではなく、通学の利便性や経済的負担等の問題もあることから、地域の実情に配慮し、高等学校が適正に配置されるような配慮が必要である。よって、静岡県及び静岡県教育委員会においては、中遠及び東遠地域の実情をご賢察いただき、計画案を変更し、横須賀高等学校を統合の対象外とするよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成30年2月22日
静岡県掛川市議会